

大会宣言

私達は「政治とカネ」と「大阪万博・IR」の問題の追及をメインテーマとして、「やめてえな いのち蝕む 暗黒博」と題した第31回全国市民オンブズマン大阪大会を開催しました。当初は大会後に「万博会場」のバスツアーを企画していましたが、大会直前に気象庁が発表した「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」を契機に、万一の場合の安全性が確保できないことが判明し、中止することにしました。奇しくも、税金を万博に投入される市民だけでなく、来場者にとっても大阪万博が「いのち蝕む」ものであることを当事者として突きつけられたのです。

また、台風のためWeb開催となりましたが、この二日間、私達は「政治とカネ」の問題や大阪万博が象徴する市民不在の行政等について、熱心な議論をしました。

政治とカネについて、私達が行ってきた政務活動費の透明度や執行率の監視に加え、今回はじめて都道府県と政令市の議会が定めた政務活動費の用途マニュアルを100点満点で評価しました。その結果、議会が定めた用途マニュアルは、市民の感覚とかけ離れていることが明らかになりました。同様の「差」は議員の海外視察でも見られることも報告されました。

さらに、政治資金規正法にもとづく収支報告書の閲覧は、市民の知る権利の行使であり、政治を変えることにつながることを強く認識しました。そして、大阪万博・IRに象徴される、利権を優先して福祉を軽視する「大阪の問題」に対しても、情報公開請求等の知る権利をより一層行使し、行政や政治家に対する監視を強め、正しい情報を発信していくことが、市民のいのちと大阪の文化を守る要であることを確認しました。

また、今大会では、人事院勧告が採用する公務員の地域手当が、地域ごとの格差社会を生み出していること、裁判官の場合は憲法違反の問題があることも報告されました。

こうした多くの成果をあげたこの大会を通して、ここに私達は以下の宣言をします。

記

- 1 IRとその前座である大阪万博が税金の無駄使いであり、カジノ依存症を蔓延させ、来場者にとっても危険であることを広く伝え、中止を求め続けること。
- 2 政治家の収支報告書を閲覧し、分析し、政治家へのカネの流れを監視すること。
- 3 政務活動費のマニュアルが市民の常識に適合するものとなるよう、議会に働きかけを行うこと。
- 4 地域手当の廃止に向けて、訴訟支援を含むあらゆる行動をとっていくこと。

2024年9月1日

第31回全国市民オンブズマン大阪大会 参加者一同